

令和2年度 前期学校評価アンケート結果のご報告

前期学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。児童数470名（アンケート実施当時）に対して、保護者の回答数が435件（回収率約93%）だった結果から、保護者の皆様の学校に対する関心の高さが伺えます。今回もアンケート実施と同時期に、児童と教職員にもアンケートを実施しました。それらの結果を報告させていただきます。

1. 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標 学ぼうとする意欲や生涯にわたって学び続ける力を身につけさせる。

学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ①授業は分かりやすいですか。児童96.3% 保護者88.2% 教職員79.2%
- ②授業中、進んで発表していますか。児童67.0% 保護者64.3% 教職員66.6%
- ③学習ノートを見やすく書いていますか。児童84.4% 保護者68.4% 教職員66.7%
- ④学習ノートに、「めあて」に沿った「振り返り」を書いていますか。
児童92.6% 保護者73.5% 教職員66.6%
- ⑤自分から進んで家庭学習をしていますか。児童73.4% 保護者58.1% 教職員60.8%
- ⑥読書の習慣が身についていますか。児童77.4% 保護者54.9% 教職員62.5%

分析（成果と課題）

①については96.3%の児童が、授業が分かりやすいと答えています。校内研究や研修を重ね、授業改善に取り組んだ成果と考えています。③については、保護者の指数が前回より7.4%下がりました。学習期間の少なさや、「ノートの書き方」の配布により保護者のノート作りに対する意識が高まったことが要因だと考えられます。④については、前回より保護者の指数が7.2%、教職員の指数が25.4%下がりました。「めあてを『確かめ』から「めあてに『沿った』」という項目内容の変更によるものだと考えられます。⑥については、児童の指数が前回より5.4%下がりました。

分析を踏まえた取組の改善

今年度保護者にも配布した、6年間を見通した「ノートの書き方」に沿ったノート作りを徹底して指導します。また、子ども自らがチェックポイントを見て、到達度を確認できるようにします。

読書の習慣については、読書ノートをチェックする際に、冊数だけでなく分野の偏りがどうかをチェックしたり、学習したことに関連のある図書を薦めたりする等、工夫をして様々な分野の本に興味をもてるように読書意欲を高めていきたいと思います。

2. 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 規範意識の育成や道徳教育の充実を図り、支え合い高め合う集団をつくる。

学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ①自分からあいさつができていますか。児童85.1% 保護者69.7% 教職員45.9%
- ②相手を思いやり、親切にすることができますか。児童93.7% 保護者93.9% 教職員87.5%
- ③周りの人から大切にされていますか。児童94.7% 保護者99.0% 教職員95.8%
- ④ものを大切にしていますか。児童93.3% 保護者69.3% 教職員70.9%
- ⑤学校のきまりや社会のルールを守っていますか。児童95.1% 保護者95.8% 教職員91.7%

分析（成果と課題）

①について、児童の85.1%は出来ていると評価していますが、保護者は69.7%と児童に比べて低い値を示しています。また教職員は45.9%と、さらに低い値を示しています。児童自らは自分からあいさつしているつもりでも、相手に伝わっていないことが考えられます。また、家庭内では自分からあいさつできていても、地域や学校ではできていないことも考えられます。

分析を踏まえた取組の改善

「自ら進んであいさつのできる子ども」を育てていくには、今後も学校・家庭・地域が一体となることが大切です。あいさつが人権教育の第一歩につながることを意識し、具体的な良いあいさつについて、子どもたちと一緒に考えていきたいと思います。

3. 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 運動やスポーツの実践と体力の向上、健康的な生活を送る子を育成する。

学校評価アンケート結果（出来ている割合を表示）

- ①睡眠時間は8時間以上とれていますか。児童86.2% 保護者88.9% 教職員62.5%
- ②毎日朝ごはんを食べていますか。児童97.7% 保護者97.0% 教職員91.7%
- ③外遊びやスポーツなどで、体を動かしていますか。
児童87.2% 保護者74.4% 教職員54.2%
- ④テレビを観たり、ゲームをしたりする時間を決めていますか。
児童77.9% 保護者56.8% 教職員45.8%
- ⑤安全に登校できていますか。児童96.5% 保護者96.7% 教職員95.9%
- ⑥安全に下校できていますか。児童96.9% 保護者96.0% 教職員66.7%

分析（成果と課題）

③については、教職員の指数が21.8%下がりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策の一つとして、外遊びやスポーツを自粛する傾向にあることから、このような指数になったのではないかと考えられます。⑤については、教職員の指数が19.9%上がりました。今年度も地域の方々に見守られながら、高学年のリーダーのもと、きちんと並んで安全に登校している様子が見られます。特に、PTA地域委員の皆様による活動に支えられている面が大きいと考えられます。

分析を踏まえた取組の改善

⑥の下校については、教職員の指数が登校に比べて29.2%下がっています。一人一人が安全に気をつけ、気持ちを落ち着けて下校するよう継続して指導していくとともに、ご家庭でも安全についての声かけのご協力をお願いします。

4. 学校運営協議会（9月15日）より＜意見の一部を抜粋＞

- 子どもの長所を伸ばす教育をして欲しい。それをできるのが教師であり、役目だと思う。
- コロナで、南部資源リサイクルセンター、横大路学園、さすてな京都の社会科見学が中止になったが、来年度は実施してほしい。京都市横大路学園は、福祉の学習に活用してほしい。
- 宇多野ユースホステルを通して、引き続き外国との交流を進めてほしい。
- 保護者が自らあいさつする姿を子どもに見せることで、子どもは自然とあいさつをするようになる。
- 行事を中止するのは簡単だが、今後も「with コロナ」で感染予防に努めながら、様々な取組を進めていく必要がある。
- 下校は登校に比べて、教職員の指数が29.2%も下がっている。教職員も下校の様子を見て安全指導をしてくれているが、地域でも見守り活動をしていく。
- 保護者が自ら自転車の左側走行をすることで、子どもも自然と左側走行をするようになる。

